



一人ひとりの想いに応じて  
支援できるのが  
維持会のよさ

公認会計士 税理士  
やまと総合会計事務所代表  
**片山 武蔵君**

## 慶應義塾維持会に ご寄付をいただいたきっかけは？

昨年、慶應義塾から送られてきた活動報告のパンフレットを見たのがきっかけです。そこに載っていたのが、地方出身の学生への奨学金による支援があるということ。優秀な若者が慶應で学ぶことを応援するという趣旨に賛同して寄付をさせていただきました。私は卒業148期の年度三田会の幹事や、慶應義塾湘南藤沢高校の同窓会の幹事をしたり、連合三田会の運営の手伝いをしたりして、大学卒業後も慶應とつながりを持っています。

自分ができる範囲で慶應を応援していきたい気

持ち、普通部、  
慶應義塾湘南藤  
沢高等学校、慶  
應義塾大学経済  
学部と10年間  
学んだ慶應にな  
にか恩返しとし



高校時代の片山君

たい気持ちがありました。そこで、30万円の寄付で維持会終身会員になれること、記念の時計や三田評論をいただけることを知ったのです。さらに、終身会員なら一生、三田評論が送られてくことに魅力を感じ、終身会員として支援することを選びました。

## 維持会活動に共感することは？

これまでの人生を振り返ってみると、慶應義塾在学中も卒業後も先輩方からたくさんのことを教えていただきました。食事をご馳走になったことも数知れません。その度に「恩返しは自分にではなく、後輩に同じことをしてあげなさい」と言われてきたように感じています。

義塾で学び社会で活躍している卒業生が母校に寄付し、学生のみなさんの活動を支援するのは、次の世代の先導者を育てるための大切な循環過程だと思うのです。慶應義塾への信頼感があるので、維持会への寄付はきっと実りあることに使っていたと信じています。



## 年間1万円から始められる 支援制度をどう思いますか？

私は30万円の終身会員を選びましたが、年間1万円からの寄付も選択できるのはいいことです。一人ひとりの経済状況にあわせて選択でき、想いに応じて支援できるところ、寄付の文化をつくれるのが維持会のよさではないでしょうか。

海外の大学では卒業生が母校に寄付して、それが奨学金に充てられるという例は知っていました。今回、維持会の活動報告を見て、慶應でもそれができるのだと嬉しく思います。

私は慶應で学び、公認会計士になり、独立して事務所を構えました。現在の生活基盤をつくれたのは、楽しかった大学生活のなかで公認会計士という職業を知ったおかげです。現在の私をつくってく



公認会計士試験を突破した同期の皆と

れた慶應に恩返しの意味を込めて、塾生のみなさんの将来につながる種となる支援ができるのは、ほんとうに素晴らしいことです。

## 維持会奨学金を受給する 塾生への想いは？

塾生のみなさんが卒業されて、将来ご自身の生活にゆとりが出てきたときに同じように義塾に恩返しができる人材になれるよう、大学生活において勉強でもスポーツでも、サークル活動でも精一杯がんばっていただきたいですね。10年後でも、20年後でも今度は自分が維持会を支援するという循環が生まれたら、素晴らしいと思います。だからこそ、塾生のみなさんは今を楽しんで充実させてほしいという想いしかありません。

## これからの維持会に望むことは？

塾員のみなさんの中でも維持会のことを知らない人は多いのではないのでしょうか。私もパンフレットを見るまで、維持会の存在を知りませんでした。もっと早くに維持会を知る機会があれば、寄付をする卒業生がもっと増えると思います。

私は現在、39歳です。前職時代に病気をするなどして、お金や時間に対する価値観が変わってきました。経済的に少しでも余裕があれば寄付をしたり、時間に余裕があれば活動を支援したりするのいいと思っています。

一般的には定年退職するまで働いて稼いで、自分で使いきれなくなってから寄付をするという人が多いかもしれません。しかし、30代40代の子育て世代でも寄付していいのではと思います。みんなが若いうちから支援する文化が広がれば、きっと変わっていくはずですよ。

## 塾員のみなさまにメッセージを！

私は20代の頃、体調を崩して会社を退職せざるを得なくなりました。病気の原因も分からず、治療方法もなく、かなり悩みました。1年くらい、自宅療養をしていました。それまでは、会社で出世することや海外進出することなど、仕事中心の目線で話をしていたと思います。同級生と話をして、健康を度外視して働くことが美徳として語られていました。しかし、今は違います。日々楽しく、健康に生活することが何よりも大切だと気づきました。毎日朝起きて、ストレスをかかえずに仕事をして、夜今日も楽しかったと寝ることが一番の幸せだと思うようになったのです。

現在は地元で会計事務所を開業し、地元の経営者さんの事業を支援しています。毎日の時間の流れがゆったりと感じられるようになりました。自分の余裕のある時間を仕事に費やすのではなく、社会貢献活動を含めて、義塾への寄付や支援活動に使っていきたいと思っています。塾員のみなさんも、自分が幸せだと感じるような時間の使い方を、もう一度自問してみてもいいのではないでしょうか。